

# 【附則】がん病態栄養専門管理栄養士・実地修練研修要項

(カリキュラム参考資料)

## がん病態栄養専門管理栄養士コンピテンシー チェックシート (自己評価)

到達レベル	内 容
3	高度な相談に応じることができる
2	個々に具体的な説明をすることができる。
1	概念や意義を知っている。
0	適用外

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
<b>1</b>	<b>がんに関する一般知識</b>					
		(1) 各種がんに対する疫学、予後、臨床経過				
		1) 5大がんを理解している。	1			
		2) 我が国の主ながんの死亡率や罹患率を理解している。	1			
		3) がん対策基本法を理解している。	1			
		4) 食物、栄養、身体活動とがんのリスクとの関連について説明できる。	3			
		5) がんの臨床経過とがん悪液質について説明できる。	3			
		(2) がんの治療				
		・外科的治療、放射線治療、薬物療法の特徴とこれらを組み合わせた集学的治療				
		1. 外科的治療の適応基準、手術方法の概略を理解している。	1			
		2. 放射線治療の適応基準、種類、方法、照射時期、治療期間の概略を理解している。	1			
		3. 放射線治療に伴う副作用とその発症時期、対策の概略を理解し、栄養に関する問題点を説明できる。	3			
		4. 各種がんにおける薬物療法の特徴と概略を理解している。	2			
		5. 補助化学療法（術前・術後）の目的と意義を理解し、栄養に関する問題点を説明できる。	3			
		6. 化学放射線療法の概略を理解し、栄養に関する問題点を説明できる。	3			
		・抗がん剤によって発現する副作用（症状、グレード、好発時期、可逆性、および対処法）				
		1. 抗がん剤の副作用の発現機序、好発薬剤、初期症状、好発時期と対処法（予防措置・支持療法など）について理解している。	2			
		2. CTCAE（有害事象の共通用語基準）のグレード評価を理解している。	2			
		・支持療法の種類、根拠、方法について				
		1. 支持療法の目的と意義、症状マネジメントの重要性を理解している。	2			
		2. 悪心・嘔吐の発現機序を理解し、発現時期（急性・遅発性・予測性）にあわせた食事の説明・提案ができる。	3			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
		・補完代替医療、サプリメント				
		1. 補完代替医療・サプリメントについて説明できる	1			
		2. 補完代替医療の効果や問題点について理解している。	1			
		3. サプリメントのエビデンスや問題点について理解している。	1			
		4. 補完代替医療・サプリメントを理解し、これらも含めた栄養プランを提案できる	2			
		(3) がんの再発・再燃・転移後の治療と症状				
		1. 転移のメカニズムを理解している。	1			
		2. 転移の発生しやすい臓器とその理由を理解している。	1			
		3. 各種がんの再発・再燃に伴う症状と治療法を理解している。	1			
		(4) 緩和医療について ; がん患者の心理社会的問題				
		1. 緩和医療の目的と意義、問題点を理解している。	1			
		2. 終末期医療の目的と意義、問題点を理解している。	1			
		3. 緩和ケアを提供する仕組みについて説明できる。	1			
		4. がん性疼痛と緩和ケア				
		a. がん患者が有する全人的苦痛 (total pain) を理解している。	1			
		b. がん性疼痛の症状マネジメントと治療目標について理解している。	1			
		c. がん性疼痛の薬物治療における5つの基本原則 (WHO方式) を理解している。	1			
		d. オピオイド製剤の種類、特徴について理解している。	1			
		(5) 在宅ケアについて				
		1. 終末期における在宅ケアの目的と意義、問題点を理解している。	1			
		2. 在宅ケアを提供する仕組みについて説明できる。	1			
		3. 在宅における栄養管理の具体的な方法 (経鼻栄養やPEGなども含め) を指導できる。	3			
		(6) 地域連携と病診連携 ; がん治療に関わるスタッフの役割				
		1. 地域の医療機関等とスムーズな連携を行える体制 (病診・病病連携) について説明できる。	1			
		2. 地域の医療機関等に対する情報提供書のあり方について説明できる。	2			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
		(7) 他のメディカル・スタッフとのコミュニケーション				
		1. 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床心理士、メディカルソーシャルワーカー、ボランティアなどの役割を理解し、説明できる。	3			
		2. がん診療チーム、緩和ケアチーム、感染対策チーム（ICT）などの役割を理解し、説明できる。	3			
		3. キャンサーボード、症例検討会などの役割を理解し、説明できる。	3			
		4. がん病態栄養専門管理栄養士の役割を説明できる。	3			
		5. 診療録、看護記録、カンファレンスなどで、他のメディカル・スタッフが使用している専門用語や略語を理解できる。	2			
		6. メディカル・スタッフの一員であることを常に自覚し、礼儀、言葉づかいに気をつけて協働できる。	3			
		7. 他のメディカル・スタッフとの協働を通じて、職種間、部門間の問題に対して建設的な意見交換や対処方法の提案により、チーム医療を推進できる。	3			
		8. 栄養部門内の意見調整ができる。	3			
		(8) 医療職としての倫理				
		1. 医療倫理の4原則を理解している。	3			
		2. 個人情報保護法を理解し、適切に取り扱うことができる。	3			
		3. 管理栄養士・栄養士倫理綱領を理解している。	3			
		4. がん患者の栄養管理にあたり、必要な倫理的事項を理解している。	3			
<b>2</b>	<b>がん患者の栄養管理の基礎的事項</b>					
		(1) がんの栄養代謝				
		1. 担がん状態の糖質、たんぱく質、脂質代謝における栄養代謝の特徴について説明できる。	3			
		(2) がん患者における栄養補給（経口、経腸、静脈）				
		1. 種々のがん患者に対して、病態を踏まえた適切な食事を提案できる。	3			
		2. 種々のがん患者に対して、病態を踏まえた経腸栄養剤・栄養補助食品の選択、変更が提案できる。	3			
		3. 静脈栄養法の必要性を評価し、適切な栄養量を提案できる。	3			
		4. 終末期がん患者に対する栄養補給について提案できる。	3			
		(3) がん治療時（手術療法・化学療法・放射線療法時）の栄養管理				
		外科的治療における栄養管理				
		1. 術前から退院後までの継続的な栄養介入の重要性を理解している。	3			
		2. 術式や残存部位によって、術後の栄養ケアプランが異なることを説明できる。	3			
		3. 栄養状態が抗がん剤（術後補助療法）の完遂率に影響することを説明できる。	3			
		4. 外科的療法を施行する栄養管理が必要な患者に対して、術前から退院までの継続的な栄養相談ができる。	3			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
		1. 有害事象が及ぼす栄養管理への影響について説明できる。	3			
		2. 有害事象共通用語基準について理解し、これを考慮した栄養・食事管理ができる。	3			
		3. 病名、レジメン、有害事象について把握し、栄養アセスメントに役立てることができる。	3			
		4. 有害事象を有するリスクが高い抗がん剤投与の患者への早期栄養介入ができる。	3			
		<b>嘔気・嘔吐、下痢、便秘、味覚障害（口内炎）、嚥下障害</b>				
		1. 放射線治療・化学療法時の食欲不振への対応を提案できる。	3			
		2. 味覚障害の原因を理解し、その対応を提案できる。	3			
		3. 食事状況を把握して、過不足を評価し適切に対応できる。	3			
		4. 他職種への栄養に関する情報提供ができる。	3			
		5. 下痢に対する栄養療法を提案できる。	3			
		6. 便秘に対する栄養療法を提案できる。	3			
		7. 口内炎に対する栄養療法を提案できる。	3			
		8. 嚥下状況の評価と適切な栄養補給の提案ができる。	3			
		<b>(4) 口腔ケアと栄養管理</b>				
		1. 患者の口腔内を観察し、評価・報告できる。	3			
		2. 口腔内の状況を考慮した適切な栄養補給法の提案ができる。	3			
		<b>(5) ストマケアと栄養管理</b>				
		1. ストマの部位による栄養管理（水分・体重管理）ができる。	3			
		2. 排泄物の状況（形態と量）の確認ができる。	3			
		3. ストマ周囲の状況が観察できる。	3			
		<b>(6) 終末期がん患者の栄養管理</b>				
		1. 患者、家族の心理や価値観を理解できる。	3			
		2. オピオイドの副作用について理解している。	3			
		3. best supportive care について理解している。	3			
		4. 終末期がん患者の負担にならないような食事の提供について提案できる。	3			
		5. 患者・家族が求める食についてのニーズを把握できる。	3			
		6. 食を楽しみ、満足感をもって過ごせる支援を行うことができる。	3			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
<b>3</b>	<b>がんの病態と治療、栄養管理</b>					
	1) 食道がん					
	[病態生理]					
	1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。		1			
	2. リスクファクター（喫煙、飲酒など）を理解している。		1			
	3. 病期分類と予後、治療方針の関連性を理解している。		1			
	4. 食道がんの発生部位と部位別の発生頻度および症状を理解している。		1			
	5. 初期症状および自覚症状（食思不振、貧血、体重減少、嘔気・嘔吐、つかえ感、嚥下困難など）を理解している。		2			
	6. TNM分類、「食道がん取扱い規約」の概要を理解している。		1			
	[治療]					
	1. 病期分類と予後、治療方針の関連性を理解している。		1			
	2. 食道がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。		1			
	3. がん化学療法に対する支持療法を理解している。		1			
	4. 食道がん術後にみられる合併症と対症療法を理解している。		1			
	[栄養管理]					
	1. 術前・術後の栄養管理の必要性を説明できる。		3			
	2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。		3			
	3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。		3			
	4. 反回神経麻痺など嚥下機能に応じた食事提供及び、栄養プランが提案できる。		3			
	2) 胃がん					
	[病態生理]					
	1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。		1			
	2. リスクファクター（喫煙、ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性萎縮性胃炎など）を理解している。		1			
	3. 検診の概要と意義を理解している。		1			
	4. 病期分類と予後、治療方針の関連性を理解している。		1			
	5. 胃がんの発生部位と部位別の発生頻度および症状を理解している。		1			
	6. 初期症状および自覚症状（食思不振、上腹部痛、貧血、体重減少、腹部腫瘍、嘔気・嘔吐、吐血、嚥下困難など）を理解している。		2			
	7. TNM分類、「胃がん取扱い規約」の概要を理解している。		1			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
		[治療]				
		1. 病期分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 胃がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. がん化学療法に対する支持療法を説明できる。	1			
		4. 胃がん術後にみられる合併症（ダンピング症候群など）と対症療法を説明できる。	1			
		[栄養管理]				
		1. 術前の栄養管理の必要性を説明できる。	3			
		2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
		3) 大腸がん				
		[病態生理]				
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（年齢、家族歴、腺腫・ポリープ・炎症性腸疾患、食事、飲酒、体型、遺伝子異常など）を理解している。	1			
		3. 検診の概要と意義を理解している。	1			
		4. 大腸がんの発生部位と部位別の発生頻度および症状（肛門出血、便柱狭小、便秘、下痢など）を理解している。	1			
		5. 初期症状および自覚症状（便通異常、腹痛、腹部膨満感など）を理解している。	1			
		6. TNM分類と「大腸がん取扱い規約」の概要を理解している。	1			
		[治療]				
		1. 病期分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 大腸がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. 治療に用いられる薬剤の副作用とその初期症状、対処法を理解している。	1			
		4. がん化学療法に対する支持療法を理解している。	1			
		5. 対症療法的な手術の目的（バイパス、人工肛門造設）を理解している。	1			
		[栄養管理]				
		1. 術前の栄養管理の必要性を説明できる。	3			
		2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
	4) 肺がん					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、病期別の5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（喫煙とそれ以外の要因）を挙げられる。	1			
		3. 検診の概要と意義を理解している。	1			
		4. 肺がんの初期症状（咳嗽、喀痰、血痰、発熱、呼吸困難、胸痛など）を理解している。	1			
		5. 肺がんの分類と病期を理解している。	1			
	[治療]					
		1. 病期分類と予後、治療方針（手術・化学療法・放射線治療など）の関連性を理解している。	1			
		2. 肺がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. 治療に用いられる薬剤の一般のおよび特有の副作用と初期症状、対応を理解している。	1			
	[栄養管理]					
		1. 術前の栄養管理の必要性を説明できる。	3			
		2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
	5) 婦人科のがん					
	(乳がん)					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（脂肪摂取、出産の有無、初潮年齢、閉経年齢など）を挙げられる。	1			
		3. 検診を受けるべき年齢と根拠を理解している。	1			
		4. 初期症状（乳房腫瘍、乳汁分泌、乳頭陥凹、乳房非対象など）、自覚症状（皮膚のえくぼ所見など）を理解している。	1			
		5. TNM分類を理解している。	1			
	[治療]					
		1. 病期分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 乳がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. がん化学療法に対する支持療法を理解している。	1			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
	[栄養管理]					
		1. 術前の栄養管理の必要性を説明できる。	3			
		2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
	(子宮がん)					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクターを挙げられる。	1			
		3. 検診を受けるべき年齢と根拠を理解している。	1			
		4. TNM分類・FIGO分類を理解している。	1			
	[治療]					
		1. 病期分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 子宮がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. がん化学療法に対する支持療法を理解している。	1			
	[栄養管理]					
		1. 術前の栄養管理の必要性を説明できる。	3			
		2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
	6) 血液がん					
	(悪性リンパ腫)					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクターを挙げられる。	1			
		3. 診断方法を理解している。	1			
		4. 病型と分類を理解している。	1			
	[治療]					
		1. 化学療法と放射線療法を理解している。	1			
		2. 化学療法に対する支持療法を理解している。	1			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
	[栄養管理]					
		1. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		2. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
	(白血病)					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクターを挙げられる。	1			
		3. 診断方法を理解している。	1			
		4. 病型と分類を理解している。	1			
	[治療]					
		1. 化学療法と放射線療法を理解している。	1			
		2. 化学療法に対する支持療法を理解している。	1			
	[栄養管理]					
		1. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		2. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
	7) 肝・胆・膵がん					
	[肝がん]					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（肝炎ウイルスの持続感染、肝硬変、多量飲酒など）を理解している。	1			
		3. 原発性肝がん（肝細胞がん、肝内胆管がん、混合型）と他臓器がんから転移した転移性肝がんについて、臨床症状、治療法、予後などの違いを理解している。	1			
		4. 初期症状および自覚症状（肝機能障害、門脈圧亢進による症状、肝臓のしこりや痛み等）を理解している。	1			
		5. 肝細胞がんにおける、進行度（TNM分類）と肝障害度・肝余備能（Child-Pugh分類）について理解している。	1			
	[治療]					
		1. ステージ分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 肝がんの局所療法、手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. 治療に用いる薬剤の副作用とその初期症状、対処法を理解している。	1			
		4. がん化学療法に対する支持療法を理解している。	1			
		5. 疼痛の緩和、肝性脳症、腹水、栄養療法など、症状緩和の方法について説明できる。	1			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
	[栄養管理]					
		1. 術前の栄養管理の必要性を説明できる。	3			
		2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
		4. 夜間頻回食（LES）の栄養的意義を理解し、栄養指導できる。	3			
	【胆道がん】					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（胆道系疾患など）を理解している。	1			
		3. 胆管がん、胆嚢がん、乳頭部がんの分類について理解している。	1			
		4. 初期症状および自覚症状（黄疸、右腹部痛、体重減少など）を理解している。	1			
		5. 胆道がんにおける進行度（TNM分類）について理解している。	1			
	[治療]					
		1. ステージ分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 胆道がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. 化学療法に用いられる抗がん剤と代表的レジメンの治療成績、副作用、副作用対策について理解している。	1			
	[栄養管理]					
		1. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		2. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
		3. 術前の栄養管理の必要性を理解している。	3			
	【膵がん】					
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（家族歴、喫煙、糖尿病、慢性膵炎など）を理解している。	1			
		3. 膵管に由来する浸潤性膵管癌と内分泌腺に由来する膵内分泌腫瘍を理解している。	1			
		4. 初期症状および自覚症状（黄疸、腹痛、腰背部痛、体重減少、食欲不振、糖尿病の急な発症や悪化など）を理解している。	1			
		5. 膵がんにおける進行度（TNM分類）について理解している。	1			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
	[治療]					
		1. ステージ分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 膀胱がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. 化学療法に用いられる抗がん剤と代表的レジメンの治療成績、副作用、副作用対策について理解している。	1			
	[栄養管理]					
		1. 術前の栄養管理の必要性を説明できる。	3			
		2. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		3. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
		4. 腸瘻からの栄養管理を理解している。	3			
		5. 術式に合わせて必要となる血糖管理を理解して、それに合わせた栄養指導ができる。	3			
		8) 頭頸部がん（口腔、咽頭・喉頭）				
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（飲酒、喫煙など）を理解している。	1			
		3. 口腔、咽頭・喉頭がんにおける進行度（TNM分類）について理解している。	1			
	[治療]					
		1. ステージ分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 頭頸部がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. 化学療法に用いられる抗がん剤と代表的レジメンの治療成績、副作用、副作用対策について理解している。	1			
	[栄養管理]					
		1. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		2. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
		9) 腎・泌尿器がん				
	[病態生理]					
		1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を理解している。	1			
		2. リスクファクター（加齢、肥満、喫煙など）を理解している。	1			
		3. 腎・泌尿器がんにおける進行度（TNM分類）について理解している。	1			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
	[治療]					
		1. ステージ分類と予後、治療方針の関連性を理解している。	1			
		2. 腎・泌尿器がんの手術式と放射線療法、化学療法の概要を理解している。	1			
		3. 化学療法に用いられる抗がん剤と代表的レジメンの治療成績、副作用、副作用対策について理解している。	1			
	[栄養管理]					
		1. 個々の患者の病態や治療を理解し、栄養アセスメントに基づいた適切な栄養指導・食事情報提供ができる。	3			
		2. 医師・看護師等とのカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針を理解し患者の栄養療法について提案できる。	3			
<b>4</b>	<b>がん病態栄養専門管理栄養士に必要な技術</b>					
	(1) がん患者の栄養ケアプロセス（ケアの標準化）の理解と実践					
		1. がん患者の栄養スクリーニングと栄養アセスメントの意義について理解し、説明できる。	3			
		2. 栄養診断や栄養ケアプロセスの用語が説明できる。	3			
		3. がん患者の適正栄養量が算出できる。	3			
		4. がん患者の状況に応じた、適切な栄養補給（経口・経腸・静脈）法が提案できる。	3			
		5. 栄養補給について適切な指標を用いてモニタリングと再評価ができる。	3			
		6. 栄養ケアプロセスを記録し、他職種へ情報提供できる。	3			
	(2) 栄養スクリーニングとアセスメント：臨床検査、臨床審査に関する知識					
	基本的な検査結果、超音波・放射線画像、バイタル・尿所見・廃液などから病態を見る知識					
		1. がん患者の栄養スクリーニングや栄養アセスメントに必要な栄養指標を選択し、実践できる。	3			
		2. がん特有の食欲不振や身体所見を評価することができる。	3			
		3. 栄養アセスメントの結果から、患者に起きている代謝異常や臨床症状を的確に把握することができる。	3			
		4. 臨床検査、画像、バイタル・尿所見・廃液などから病態（代謝異常や臨床症状）を把握できる	3			
		5. 水分・電解質バランスを評価し、病態を把握して適切な水分・電解質補給を提案できる。	3			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
		(3) 栄養診断、栄養管理計画、栄養介入				
		1. 栄養管理計画書の作成・整備が作成できる。	3			
		2. 栄養アセスメントを踏まえた適切な栄養診断ができる。	3			
		3. 投与栄養量の過不足を算出し、栄養計画（経口、経腸、静脈）を提案できる。	3			
		4. 患者のアレルギー情報を把握した上で、栄養管理の提案ができる。	3			
		5. 食事摂取不良（またはそれ以外の理由で必要と判断した）患者への適切な栄養介入ができる。	3			
		6. 医師、看護師と連携し、管理栄養士が主体的に食事・経腸の調整を行うことができる。	3			
		7. 緩和ケアチーム、褥瘡チーム、ICT、NSTなどと連携し、食事・栄養の処方（輸液、経腸栄養剤・栄養補助食品の選択・変更）が提案できる。	3			
		8. 各がん種のガイドラインおよび標準治療を理解し、食事・栄養管理が実践できる。	3			
		9. ホスピスサマリー作成およびデス・カンファレンスで栄養管理の報告ができる。	2			
		(4) フードケアマネジメント				
		1. 食欲低下時の食材や献立について対応できる。	3			
		2. 主食の選択、副食の量・形態・味・温度への対応策を整理し、対応できる。	3			
		3. 食物の臭いに対する対応ができる。	3			
		4. 口腔内膜炎への対応食が提案できる。	3			
		5. 化学療法時への対応食が提案できる。	3			
		6. 味覚障害への食事対応ができる。	3			
		7. 消化器術後の体重減少に対し、分割食などの対応ができる。	3			
		8. 摂食嚥下障害対策食への対応ができる。	3			
		9. 下痢や便秘に対する対応ができる。	3			
		10. 必要に応じて調理師への食事対応に対する協力をえる事ができる。	3			
		11. 栄養補助食品の選択や、それを用いたメニューが提案できる。	3			
		(5) 経腸栄養・静脈栄養マネジメント				
		1. 患者の状態に応じた経腸栄養の必要量、製品選択、投与方法、評価項目の提案ができる。	3			
		2. 経腸栄養の管理上の合併症・留意事項について説明できる。	3			
		3. 他の医療スタッフに、経腸栄養食品の情報提供ができる。	3			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開 始 時	1 年 目	2 年 目
		モニタリング				
		1. 薬剤の副作用モニタリングなどの情報、患者の病状を把握し、必要に応じて メディカルスタッフに情報をフィードバックできる。	3			
		2. 栄養補給状況をモニタリングし、定期的な再評価を行い、必要時には栄養 ケアプランを変更することができる。	3			
		(6) 栄養指導・栄養カウンセリング				
		・がん患者の精神的ケア（サイコオンコロジー）				
		1. サイコオンコロジーの定義を理解している。	1			
		2. がん患者にみられる代表的な精神症状について理解している。	1			
		3. がん患者における適応障害、うつ病、せん妄の治療法について理解している。	1			
		4. 患者、家族との間の良好な信頼関係の維持に努めることができる。	3			
		・患者との円滑なコミュニケーションと栄養管理指導				
		1. 患者の気持ちに配慮し、患者の理解度に応じてわかりやすい言葉で説明できる。	3			
		2. 患者からの聞き取りにより、状況の把握と問題点を抽出できる。	3			
		3. 患者の問題点（患者の不安な気持ちや服薬アドヒアランスなど）を抽出し、 説明により解決およびメディカル・スタッフにフィードバックができる。	3			
		4. 患者の治療歴を把握し、患者に対する適切な栄養指導・食事提供が実践できる。	3			
		5. がん化学療法を理解し、内容に基づく栄養管理・指導が実践できる。	3			
		6. 治療目的を理解し栄養指導が実践できる。	3			
		7. 患者、家族との間の良好な信頼関係の維持に努めることができる。	3			
		8. 食欲不振・味覚障害時等の食事提案と調整、患者・家族への栄養指導（相談） が実践できる。	3			
		9. 適正栄養量について患者への説明ができる。	3			
		10. 依頼のあった患者への栄養相談・栄養指導が実践できる。	3			
		(7) 感染管理				
		1. 感染リスクを高める患者背景（好中球減少を伴う血液疾患、高齢、糖尿病、 CV_ポートおよびカテーテル留置など）を理解している。	1			
		2. 感染対策に関する環境整備について理解している。	1			
		(8) 在宅支援（在宅に対する取り組み）				
		1. 地域の訪問診療所や栄養ケア（訪問看護）・ステーションと連携を図り、 在宅医療を支援できる。	2			
		2. 日常（食）生活支援に対し、連携してサポートできる体制づくりの提案ができる。	2			
		3. 対象者の栄養問題を整理し（栄養診断）、患者・家族へ食（栄養）について アドバイスができる。	3			
		4. 緩和ケアに関する栄養管理情報提供書を作成し、情報交換できる。	3			

大項目	中項目	小項目	到達 レベル	開始 時	1 年 目	2 年 目
5	臨床研究について					
		最新の治療や病態に関する情報・ガイドラインを国内外のデータベースや文献情報から調査し活用できる能力を有する。				
		1. 代表的な国内外のがん治療に関するガイドラインを理解している。	1			
		2. ガイドラインの推奨グレードについて理解している。	1			
		3. がん治療に関するガイドラインを理解し、メディカル・スタッフと協議できる。	1			
		4. がん治療に関するガイドラインを理解し、患者と家族へ栄養に関する情報提供できる。	3			
		5. インターネットによるがん治療に関する代表的な情報サイトを利用できる。	2			
		6. 最新の栄養に関する情報収集に努めることができる。	3			
		臨床論文の評価法とエビデンス・レベルの考え方を修得する。				
		1. 臨床論文を批判的に吟味することができる。	3			
		2. 研究デザイン(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)を理解している。	2			
		3. 臨床論文を評価するための統計学的解析法を理解している。	2			
		4. エビデンス・レベルを理解している。	1			
		5. 研究計画を作成できる。	2			
		6. データを解析し、まとめて発表できる。	2			

実地修練研修項目および確認シート 指導師確認用

研修項目	内容	実施☑	研修目安 期間
栄養アセスメント・ 栄養診断に基づいた 栄養管理	・がん患者における栄養ケアプロセス		5日
	・情報収集（問診・カルテ・食事摂取）		
	・栄養スクリーニングとアセスメント		
	・栄養診断		
	・栄養介入 栄養管理計画の作成（食事，経腸栄養，静脈栄養）実施		
	・栄養モニタリングと再評価		
	・総合評価		
フードサービス マネジメント	・がん患者の病態にあわせた食事の調整（献立、調理）		5日
	・食事提供サービスシステムのマネジメント		
個人栄養指導の実践	・患者・家族への支援		2日
	・術前後患者への食事指導		
	・がん化学療法・放射線療法患者への食事指導		
症状と栄養管理	症状マネジメントの実際		6日
	・各症状と栄養アセスメント		
	・適切な栄養・食事療法の提案と実施		
	・適切な指標を用いたモニタリングと再評価		
	<症状>		
	1) 食欲低下・食欲亢進		
	2) 浮腫		
	3) 口渇		
	4) 便秘		
	5) ステロイドの副作用		
6) 食事療法のストレス			
7) 嚥下障害			
8) その他			
がん臨床検査の理解	・がん診療で行われる臨床検査の概要の理解		1日
術前・術後の栄養管理	・術前の栄養管理と栄養教育		2日
	・術後の栄養管理と栄養教育		
がん放射線療法 の栄養管理	・がん放射線療法		2日
	・消化吸収機能への影響		
	・放射線治療による有害事象に対する栄養・食事療法		

がん化学療法時の栄養管理	・化学療法の種類		2日
	・支持療法		
	・治療レジメンの確認と予測される副作用（有害事象）と栄養食事療法		
	・化学療法時に起こりうる栄養障害とその対策		
がん患者に用いられる薬剤	・がん治療で用いられる薬剤の種類と薬剤による食事への影響		1日
がん患者におこる心の動きと食事	・患者家族のこころの動きと栄養管理		2日
	・適切なコミュニケーションスキル		
地域医療連携の取り組み、在宅支援	・地域（他施設、在宅）での栄養管理		2日
	・地域における栄養連携の実際（多(他)職種間での調整）		
	・栄養情報提供書の活用		
チームアプローチの実際と管理栄養士の役割	・チームカンファレンスへの参加：情報提供と栄養記録		1日
	・チームディスカッションへの主体的参加		
	・食事療法についての提言やアドバイス		
栄養マネジメントとリーダーシップ	・栄養マネジメントの企画運営		1日
	・スタッフへの指導		
症例検討の手法	・事例検討（分析手法）		5日
	・プレゼンテーション		
	<5症例まとめる>		
	I. 呼吸器がん、頭頸部・口腔がん、脳腫瘍		
	II. 消化管がん（食道、胃、大腸）		
	III. 肝・胆・膵がん		
	IV. 婦人科がん、泌尿器科がん、乳がん		
	V. 内分泌系がん（副腎、甲状腺など）、血液がん、その他		
以上より、少なくとも3分野以上で、かつ <u>周術期症例、化学療症例、放射線治療症例</u> を各1例以上含めること			

## がん病態栄養専門管理栄養士実地修練チェックリスト

### 実地修練の内容と行動目標

【栄養アセスメント・栄養診断に基づいた栄養管理：5日】

指導師 印

目標

- ・栄養アセスメント・栄養診断を踏まえ、問題解決に向けた適正な食事（栄養）計画を作成し実施できる。（栄養ケアプロセスにそった栄養管理の実践）
- ・がんの病態と臨床経過を理解し、がん悪液質予防に向けた栄養管理計画が作成できる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・がん患者の臨床症状や病態、治療方針を正しく理解できる。	
・情報収集（問診・カルテ）して、がん特有の食欲不振や身体所見を評価することができる。	
・食事調査（摂取栄養量）から必要栄養量に対する過不足を評価することができる。	
・栄養アセスメントの結果をもとに、代謝異常や臨床症状を理解し、栄養診断することができる。	
・必要栄養量を算出し、栄養管理計画が作成（食事、経腸栄養、静脈栄養）できる。	
・フードサービスへの展開、食事の調整（献立作成・調理指示・品質管理）ができる。	
・栄養管理計画を栄養指導につなげることができる。	
・栄養モニタリングと再評価により、栄養管理計画の調整ができる。	
・一連の栄養ケア終了後は、総合的に評価して整理し報告できる。	
・カンファレンス等での情報提供ができる。	
・栄養管理の経過を記録し、経過を報告書としてまとめプレゼンテーションできる。	

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【食事管理（フードサービスマネジメント）：5日】

指導師 印

目標

- ・がん患者の病態を踏まえた適切な食事支援に向け、フードサービスマネジメントができる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・食事提供サービスシステム構築について、マネジメントできる。	
・がん患者の病態に合わせた食事の調整（献立作成、調理）ができる。	
・患者・家族の心理的側面への配慮をして、施設での食事支援について説明できる。	
・カンファレンス参加による多職種への情報提供ができる。	

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【個人栄養指導の実践：2日】

指導師 印

目標

- ・がん患者と家族の状況を把握して、その時々 of 病態に即した適切な食事援助ができる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・術前後の栄養アセスメント・栄養診断を踏まえた食事指導ができる。	
・がん化学療法・放射線療法患者の栄養アセスメント・栄養診断を踏まえた栄養食事指導ができる。	
(参考) 必要なスキル	
①寄り添う姿勢（一緒に考える）	
②思い・情報の理論的な整理	
③コミュニケーションスキル（話しやすい場づくり）	
④カウンセリングスキル	
⑤わかりやすい説明（目的、現状、改善方法、確認法）	

自己学習

- ・カウンセリング技法，コーチングスキル
- ・患者さんとのコミュニケーションで困った場面について整理する。

参考文献

【症状と栄養管理：6日】

指導師 印

目標

- ・病棟におけるがん病患者治療に関する基本的事項を研修し、種々の症状に対する栄養管理のあり方を体験し、がん悪液質予防のあり方を理解する。
- ・がん患者の各種症状のメカニズムを理解し、症状緩和の実際を体験する。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
① 疾患そのものあるいは、がん治療によってがん患者に現れる様々な症状を理解する。	
② 症状に対する栄養マネジメント	
1. 各症状のメカニズムを理解し、患者の身体所見など必要な情報を収集して栄養アセスメントし、適切な栄養・食事療法を提案し、実施できる。	
2. メカニズムと対処法を説明し、食事へ反映させることができる。	
3. 適切な指標を用いたモニタリングと再評価ができる。	
<種々の症状に対する栄養管理>	
1) 食欲低下・食欲亢進	
2) 浮腫	
3) 口渇	
4) 便秘	
5) ステロイドの副作用	
6) 食事療法のストレス	
7) 嚥下障害	
8) その他	

自己学習

- ・症状のメカニズムを整理しておく。

参考資料（本研修で参考にした文献等の資料を記入する。）

【がん臨床検査の理解：2日】

指導師 印

目標

- ・がん診療で行われる臨床検査の概要（目的、方法）について理解を深める。
- ・がんの病態を把握して、結果を栄養介入に活用できる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・臨床検査の結果（結果説明）から、腫瘍の位置や進行度などがんの病態が理解できる。	
<がん検査で用いられる検査>	
・内視鏡検査	
食道・胃内視鏡検査	
大腸内視鏡検査	
・放射線検査	
・超音波検査	
・MRI	
・CT	
・その他	

自己学習

各臨床検査について、目的や方法について事前学習しておく（イラスト等用いてレポートを作成する）。

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【術前・術後の栄養管理における管理栄養士の役割：2日】

指導師 印

目標

- ・がん患者がうける手術内容を理解し、術前・術後の栄養管理方針を提案できる。
- ・術前・術後の栄養管理目標を立案し、適切な栄養補給（食事、経腸栄養剤、輸液）が提案できる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・体重の変化、食物摂取状況、消化器症状、歩行機能、疾患、疾患によるストレス、身体状況などの指標を用いて、術前後の栄養アセスメントができる。	
・医師の治療方針を踏まえた術前の栄養管理計画を作成できる。	
・医師の治療方針を踏まえ、術式や残存部位を考慮した術後の栄養管理計画を作成することができる。	
・術後補助療法の完遂率に栄養状態が影響することを理解できる。	
・術後の食事摂取状況（摂取栄養量）や身体状況をアセスメントして、栄養量の過不足を評価できる。	
・がん患者の心理的側面を理解し、栄養管理計画にそった栄養教育ができる。	

自己準備

見学が予定されている治療（手術部位等）について、その目的や方法について学習する。（イラスト等を用いてレポートを作成する。）

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【がん放射線療法の栄養管理における管理栄養士の役割：2日】

指導師 印

目標

- ・がん患者の放射線治療の目的、治療の概要（目的、方法）を理解し、栄養介入（栄養管理計画と実施）に活用できる。
- ・放射線治療による有害事象を理解し、栄養・食事面からの対応ができる。

研修内容と目標	実施☑
・放射線治療の実際を体験し、医師の治療方針を踏まえた栄養管理計画が作成できる。	
・食事摂取や消化吸収機能への影響を理解する。	
・栄養介入のタイミングを理解する。	
・放射線治療による有害事象を理解し、栄養・食事面からの対応ができる。	
<主ながん>	
食道がん	
前立腺がん	
その他のがん	

事前準備

- ・放射線治療の種類、機序、副作用など見学が予定されている放射線治療について、目的や方法を学習する。（放射線照射治療の副作用や部位のイラスト等、レポートを作成する）

参考資料（本研修で参考にした文献を記入する。）

【がん化学療法時の栄養管理における管理栄養士の役割：2日】

指導師 印

目標

- ・治療の概要（目的、方法）を理解し、がん患者がうける化学療法の実際を見学して、栄養管理（栄養管理計画と実施）に活用できる。

研修内容と行動目標	実施☑
・化学療法の種類と役割が理解できる。	
・抗癌剤の種類が理解できる。	
・消化吸収機能への影響について理解できる。	
・支持療法の役割や症状緩和のタイミングが理解でき、栄養管理に繋げることができる。	
・化学療法による有害事象を理解し、栄養・食事面からの対応ができる。	
・化学療法時に起こりうる栄養障害を推測し、その対策を提案できる。	

自己学習

化学療法に用いられる薬剤の種類と副作用（有害事象）、支持療法について事前学習する。

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【がん患者に用いられる薬剤：1日】

指導師 印

目標

- ・がんの治療に用いられる薬剤と薬物療法の実際を体験して、臨床経過（治療）効果や栄養療法を行う上での注意点を理解する。
- ・薬物療法が栄養管理に与える影響を理解して、適切な栄養食事療法が展開できる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・がん患者に使用されている薬剤の種類と治療目的を理解できる。	
・薬剤師の服薬指導に立ち会い、実際の様子を知る。（薬剤師による服薬指導の見学）	
・薬剤による食事への影響について理解して、食事への配慮ができる。	

自己学習

がん治療に処方される薬剤名とその効用、副作用等について整理する。

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【がん患者におこる心の動きと食事：2日】

指導師 印

目標

- ・がん患者と家族におこる心の動きを理解し、家族を含めた栄養支援ができる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・さまざまなステージにおけるがん患者・家族の心理や価値観を理解することができる。	
・病気の経過（進行）に伴うがん患者の心の動きを理解し、QOLを適切に評価できる。	
・オピオイドの副作用について理解することができる。	
・栄養ケアとしての食事の調整（献立作成、調理）ができる。	
・患者や家族と良好なコミュニケーションを図ることができる。	
・家族へ食事支援のアドバイスができる。	
・緩和ケアカンファレンスや回診へ参加し、多職種への情報提供と情報共有ができる。	

自己学習

- ・カウンセリング技法
- ・社会的資源の情報収集

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

目標

- ・療養の場の変化により生ずる患者家族の問題と、管理栄養士の役割や在宅支援の実際について理解する。
- ・他職種・他施設との連携のあり方を理解する。

研修内容と行動目標	実施☑
①療養の場所の移行により生ずる患者家族の問題点を抽出する。 →患者の思いを聞く、性格、家族構成（調理担当）、経済状況等	
②地域（他施設、在宅）連携までに整理すべき栄養管理の立案 （意向を確認する、必要なマネジメントについて） →①の情報をもとに②を立案	
③地域における栄養連携について理解する（多(他)職種間での調整）。	
④栄養情報提供書が作成できる。（必須）	

自己学習

課題の整理

1. 地域連携するにあたって、患者さんの思いを聴いているか。
2. 患者さんを他施設へ紹介、あるいは受け入れる時にどのような取り組みをしているか。

実践の現状、困ること、課題についてレポートにまとめて、事前提出する。

<地域連携については、十分実施できていない可能性があるため、自身の考え方を事前にまとめ、研修時に意見交換する。今後、地域医療連携を進める上で重要な課題と考えているので、これからのありかたについてまとめておく。>

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

目標

- ・カンファレンス参加や回診同行にてがん医療チームの役割とチームアプローチの重要性を理解する。
- ・管理栄養士の業務を学び、役割を理解する。
- ・他職種の役割を理解し、チームにおける管理栄養士の役割を果たすことができる。

研修内容と行動目標	実施☑
・医師、看護師、薬剤師等の他職種から、患者の問題点や治療方法などの情報を収集し、栄養管理（食事の提供、栄養指導、栄養状態管理）に活用できる。 （入院時医師・看護師による説明への参加）	
・がん患者におけるチームアプローチと管理栄養士の役割 （グループディスカッション）を理解する。 （管理栄養士の立場での提言ができる。）	
・経過観察（必要であれば修正）と報告（記録）ができる。	
患者の食生活・摂取状況、栄養アセスメント、栄養診断の情報を他職種に提供し、必要栄養量や食事療法の実際について提言、アドバイスができる。	
・チーム医療における多職種連携に必要なスキルの修得	
・がん医療共通言語（専門用語）の理解	
・チームディスカッションへの主体的参加	
・プレゼンテーション（要約・説明・媒体作成）	

自己学習

他職種とコミュニケーションがとれるよう医学的専門知識、医学用語を身につけておく。

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【栄養マネジメントとリーダーシップ：1日】

指導師 印

目標

- ・がん患者の栄養マネジメントとその企画運営ができる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・ケースカンファレンス等に参加し、企画運営方法を学ぶ。	
・自施設で栄養マネジメントの企画運営ができる。	
・がん療養に関する栄養マネジメントができる。	
・スタッフへの指導ができる。（栄養管理向上のための啓蒙活動）	

自己学習

- ・がん患者の栄養マネジメントについて知識を整理する。
- ・日常の栄養管理の中で、がんの症例をまとめる。

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）

【症例検討の手法：5日】

指導師 印

目標

- ・事例検討手法を理解して、適切なプレゼンテーションができる。
- ・後輩の指導ができる。

研修内容と行動目標	実施 <input checked="" type="checkbox"/>
・対象者の抽出方法を学び事例検討が実践できる。	
<5症例のまとめ>	
I. 呼吸器がん、頭頸部・口腔がん、脳腫瘍	
II. 消化管がん（食道、胃、大腸）	
III. 肝・胆・膵がん	
IV. 婦人科がん、泌尿器科がん、乳がん	
V. 内分泌系がん（副腎、甲状腺など）、血液がん、その他	
以上より、少なくとも3分野以上で、かつ周術期症例、化学療症例、放射線治療症例を各1例以上含めること	
<事例発表>	
・分析手法を理解して（調査研究データ）実践できる。	
・プレゼンテーションの基礎的知識・技術を学んで実践できる。	

自己学習

- 事例集・学会抄録を読んでおく。

参考文献（本研修で参考にした文献を記入する。）